

かれんと

No.30

2007.3.25

Current:カレント

時代の流れあるいは
新しい潮流

心をつなぐ伝統行事

アルバムを開いてみませんか。

幼いころの思い出を：

変わらない風景のなかに伝えたいものがあります。

秋祭り・どんど焼き・十三夜：

世代を超えてふれあう心が、わが街の宝です。

地域の人々が伝統行事を通して心をつなぎ

「ふるさと鹿沼」を残したい。

その願いをかなえるために、今何ができるのでしょうか。



主な内容

- ・心をつなぐ
伝統行事
- ・女性が輝くとき
- ・地域をつなぐ
「どんど焼き」
「十三夜」
- ・栃木県女性の
海外研修報告
- ・お気に入りBook
- ・ひとくちメモ
- ・編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

「伝承するのは、男の役目」とされた伝統行事。
 今、男女がともに行事の輪に入り、
 楽しみながら伝える。
 そんな行事やグループを紹介したい。



女性が輝くとき

家族・仲間を支えられて

鹿沼ぶっつけ秋祭りは、毎年第2土曜・日曜に開催され、中でも鹿沼今宮神社祭の屋台行事は、平成15年2月20日に重要無形民俗文化財として国の指定をうけました。昔、祭りは女人禁制とされ、男性だけが携わるものとされてきました。しかし時代は流れ、伝統の祭りにも変化をもたらしているようです。



女性中心の和太鼓グループ

「響綾」に出逢いました

彼女たちは幼い頃から祭りに参加していました。その祭りを自分たちの手で盛り上げたいという強い気持ちから、太鼓を始めたそうです。そして1年半、夢は叶いました。

祭りも最高潮、7台の屋台の中心に、彼女たちの太鼓の音が響き、舞いました。その場にいた誰もが、心を奪われるほどの衝撃を憶え、太鼓・囃子・観客が、まさにひとつになった瞬間でした。大歓声のあとに、彼女たちの目に涙が溢れていました。

「響綾」代表で今宮町にお住まいの齊藤利恵さんにお話を伺いました。



「響綾」代表
齊藤 利恵さん

太鼓を始めて・・・

「小さなことでも、みんなであれば大きな事ができるのではないかと、友人や知人に話してみたいです。みんなは快く「やってみよう」と賛同してくれました。

そうは言っても、30代の女性は仕事に育児に家事に大忙しです。女性中心のグループなので、家族の協力と理解がなければ、歩みだすことは出来ませんでした。それでも「やりとげたい」という強い気持ちで周囲の心を動かしました。時にはメンバーの夫が、乳飲み子をおんぶしたり、ビデオ撮影もしたりしてくれました。また、イベントの参加を楽しみにしてくれるようにもなりました。

みんなの期待に後押しされ、練習にも一層力が入るようになりました。

女性が夢に向かって頑張っている姿は、希望を与えます。

女性に望むこと

人はさまざまな夢を持っていますが、いくつもの壁にぶつかり、あきらめてしまふ人が多いようです。それでも、一歩ずつ歩みだすことが大切だと思います。

女性は、家庭では太陽のような存在です。その女性が夢に向かって頑張っている姿は、家族にも友人にも勇気や希望を与えているようです。仕事や子育てから解放され自分のための時間を楽しむことで、明日への活力が湧いてきます。



練習風景

これから

秋祭りのほか鹿沼市の各種イベントにも参加しています。活動を通して、鹿沼の秋祭りにたくさんのお客が来てくれることを願っています。

地域ぐるみで創り上げる伝統行事は、世代を超えて心のふれあいができる、貴重な場であり、後世にも残していきたいものです。

地域をつなぐ伝統行事

小正月の火祭り

どんど焼き

冬の夜空に舞い上がる炎。まゆ玉を焼いて食べ、皆の無病息災を祈る…。

どんど焼きは、佐義長さぎちやうと呼ばれる古くからの宮廷行事といわれ、今も日本各地で、小正月に行う民間の行事として伝わっています。



今回は、**粟野、新宿子供育成会**（金子利男会長、主催のどんど焼きを取材しました）。

この行事は、古来、男の子だけで行っていました。20年くらい前から女の子も参加するようになったそうです。また、少子化の影響もあり、子どもと保護者が共に楽しむ行事になりました。

昨年12月、2日間かけて「とり小屋」作りが行われました。多くの保護者が集まり、高さ8mもの「とり小屋」を入念に仕上げました。また、作り方を伝承するという目的で、小学校5・6年生も参加し、小さな「だまし小屋」を作りました。当日、1月13日(土)の午後3時、小学生38人が公民館に集合し、リヤカーを引いて各家庭を回り「めえよし、こねよし、まえたまかきのごうざった」と、口上を元氣良く叫び、正月のお飾りなどを集め

ます。一方、公民館では、帰ってきた子どもたちに、お母さん達がカレーライスを用意します。

午後6時、6年生の子どもたちが点火すると、一気に「とり小屋」は炎に包まれます。やがて、地域の人たちも「ミスキ」に刺したまゆ玉を持って集まってきます。会場では、とん汁や飲み物も振る舞われ、祭りもたけなわ。焼いたまゆ玉を持ち帰り、家族の健康と幸福を祈ります。



近頃、子どもたちが屋外で遊ぶ機会が減り、地域の人々のコミュニケーションセッションも薄れがちです。

そのような中で、地域に残る伝統行事に男女が共に積極的に参画することは、お互いを理解し合うよいきっかけになるのではないのでしょうか。

それぞれが責任を担いながら、大人も子どもも、みんなで楽しめる行事として、いつまでも継承していきたいものです。

十三夜のわら鉄砲

地域に伝わる伝統行事のひとつです。

男女の小学生の子どもたちが、十三夜に各家庭を回り、手作りのわら鉄砲を地面にたたきながら、「十三夜のわら鉄砲

大麦小麦
大豆も小豆もよく当り
今年しゃ豊年万作だ」と歌い五穀豊穡を祈ります。



▶歌いながら、わら鉄砲をたたく子どもたち(中粕尾布施合地区)

※地域によって方法や口上など、多少異なる場合があります。

栃木県女性の海外研修に参加して

報告会 1月20日(土) 市民情報センター
2006年度鹿沼市より2名参加 訪問先 ドイツ



若林 裕子さん



竹之内 照恵さん

大きな財産にになりました

団員 竹之内照恵さん
社会福祉法人勤務

ドイツの町並みには、深い歴史を感じました。古い建物を構築し、その一方では、近代的な建物や素敵なオブジェがマッチした芸術的な町です。緑が多く「動物が住めない町は人間も住めない」との論理から自然と融合する景観になっています。ホテルの周りを散策すると、家々が花で美しく飾られ、公園では日光浴や散歩をしている人がいて、ゆっくりとした時の流れを感じ、心が洗われる思いでした。

そのような町で働くキャリアウーマンは、堂々と輝いていて「自分らしく生きている」という様子は、自分もそうありたいと憧れます。また、各分野で活躍しているボランティアの人々は、あくまでも自然体で、ゆとりを持って生活し、ドイツ全体が男女共同参画社会で、家庭中心の生活が、身も心も元気にしていると感じました。

ドイツでの体験は、自分にとって大きな財産になりました。「今、自分にながでできるのか」と問うと、無力な自分を痛感します。しかし、気負うことなく、まず家庭で、一緒に働く仲間に、友人近所の人に研修過程やドイツで学んだことを伝えていきたいと思っています。

ドイツに学ぶ生き方

団員 若林裕子さん
臨床検査技師

ドイツでは、女性の社会進出が経済等の成長にとっても重要と考えられています。政府は、具体的な政策を実施して女性を強力に支援しています。女性自身もネットワークを広げ、レベルアップを図りながら「望む社会は自分たちの手で」とする強い意志で今日の地位を築いてきました。そして、その誇りや行動力が彼女たちを、より一層、輝かせているように見えました。

WEFが世界115か国の男女格差を調査した結果、日本は79位、ドイツが5位と発表されています。

その大きな差の要因は、いまだに男女の役割分担意識を拭い去れない、私たちの社会土壤そのものではないかと考えます。

ドイツの年配女性が語った「辛い時代もあったが、諦めないで、ずっと活動を続けてきた結果が、今、ここにあるのです」という一言が胸に響きます。

私たちは学び、行動に移せる幸せな時代に生きています。良い伝統や習慣は守り、偏った固定観念を破り、男女の区別なく一人ひとりの生き方や考え、働き方が、受け入れられる社会づくりを目指すことが大切なのではないでしょうか。

※WEF＝世界経済フォーラム

お気に入り Book



「女たちのジハード」
篠田 節子著
集英社

この作品は10年程前に発売され、直木賞を受賞しました。「ジハード」とは「神聖な目的のための戦争」という意味です。どこにでもいそうな5人の女性たちが、目標を達成するために動き出した時から、彼女たちの戦いが始まります。上司からは嫌がらせを受け、同僚には陰口を言われ、恋人は去って行きます。しかし、彼女たちは何度もくじけそうになりながらもめげず、あせらず、あきらめずに目標に向かって突き進んでいきます。まわりに流されそうな時、落ち込んでしまいそうな時、勇気と希望を与えてくれる1冊です。

ひとくちメモ

シニア海外ボランティア

中高年者が専門技術を生かして途上国支援にあたる制度です。

派遣人数は、平成2年の開始以来、累計で今年度中に、延べ3千人を突破する見通しです。

定年退職を迎える団塊の世代が新たな活躍の場を求めて参加、全体数を押し上げています。

運営する「国際協力機構(JICA)」も経験豊かな「熟年パワー」を活用したい考えです。

中南米、アジア、中近東などを中心に世界53か国に派遣しています。

編集後記



好きなこと、夢中になれることを持っている人は輝いています。その輝きは、周りの人も明るくしてくれそうです。

お互いを認め合い、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するためには、触れ合うこと、話し合うことが大切だと思います。まず一歩、家から出てみましょう。そして、身近な行事に参加することから始めてみませんか？